

# 玉本なるみです



2021年は、新型コロナウイルスによる感染が世界に広がり、ほんとに大変な年でした。まだまだ、予断を許さない状況ですが、今年こそは安心して暮らせる年にしたいものです。政治の役割が大いに問われると思います。市民と野党が力を合わせ、何より命が大切にされる社会の実現のために力を尽くします。

## 市民の暮らし応援する市政でなくては！

この間、市長は財政難を理由に、敬老乗車証の大改悪や学童保育の利用料の値上げを決め、今後も市バス・地下鉄の運賃値上げ等、市民の暮らしを悪化させる施策が目白押しになっています。

そもそも、市の財政が厳しくなったのは市民のせいではありません。公共事業等でお金の使い方に大いに問題があったからです。そのツケを市民に押し付けるのは問題です。敬老乗車証の改悪については、「あきらめられない」と年金者の方が新たな署名活動に取り組まれています。市民の切実な願いに寄り添い頑張る決意です。



本会議場で市長に質問する玉本なるみ市議



敬老乗車証プラカードをかかげる方と玉本市議(右側)

## 何よりも命を大切にする政治の実現を！

コロナ感染の不安の中で、入院したくてもできないまま亡くなった方のことは、絶対に忘れることはできません。看護師・保健師としての血が騒ぎ、京都市が1ヵ所に統廃合してしまった保健所についても、見直す意向はないという答弁に怒りがこみ上げてきます。各区役所に保健所を戻し、区ごとに、市民の命や健康のために丁寧な対応ができるように、体制を拡充すべきだと思っています。看護師

さん、保健師さん、保育士さん、介護福祉士さん等々、エッセンシャルワーカーの方々が命がけで、働いてくれています。そんな皆さんの苦勞が報われる賃金や労働環境の改善に向けて頑張りたいと思っています。

アンテナ  
切羽詰まっています！



この社会を変えなくてはならないと強く思ったのが、若いママ達との懇談でした。若いママが赤ちゃんを抱っこしながら、「交代勤務の社会福祉施設で、働いてきたが、実際自分がママになり、働き続けられるか心配でならない」と語りはじめられました。「パートナーも不規則な仕事で忙しく、親も遠方で頼れない。もっと、働きやすい職場にならないと続かない。今は育児休職だけ、本気で悩んでいる」と…。

子育ても仕事も両立させて頑張りたいと思っているママを応援することになっていないのが、現実です。職場によっては育児時間を1時間取る制度もありますが、現場が忙しいと仲間が負担がかかるので、取りにくいというのが現状です。「政権を変えて、もっと子育てを応援する国や自治体になれば」と話してくれました。今回、野党連合政権はできず、申し訳ない思いでいっぱいです。悩むママでなく笑顔のママやパパになるよう引き続き頑張りたいと強く思っています。

